

# 住民アセス支援ツールの開発と普及

活動地域  長野県など

ひろげる助成  
**3年目**  
知識の提供・普及啓発

モデルプロジェクトの実施	<b>3件</b>
学校プログラムの実施	<b>3件</b>
今年度計画の達成度	<b>100%</b>
目標達成度	<b>90%</b>



大阪万博アセスへの提言づくりWS 全3回

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

「住民からのアセスメント」という活動が開発事業に対する「反対運動」ととらえられて、「公的助成金を使って反対運動をしている」のような外部からの意見があった。

### ■ 工夫した点

地域に根ざした活動をする中で課題を抱えている団体と協働して、住民アセスという切り口での実践例を開拓し、その経験をツールづくりにいかした。

## 課題

住民アセス（住民団体等が自ら資金や労力を出し合って専門家等の協力を得ながら開発事業の影響を調べる活動）の取組みを広げることで、持続可能な社会の構築に寄与する。

## 目標

- ①住民アセス支援サイトが認知されるようになる
- ②住民アセスの実践事例が各地に広がる
- ③環境アセスESDプログラムの実践校が各地に広がる

## 活動内容と成果

### ■ 開発ツール

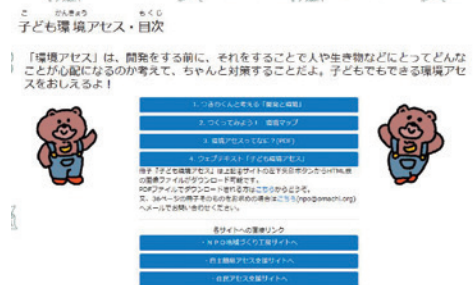
- ①住民アセス支援サイトの開設
- ②WEBソフト「簡易な環境影響診断」
- ③WEBゲーム「つきのくんと考える『開発と環境』」
- ④テキスト「つくってみよう！環境マップ」とWEBマップ
- ⑤WEBサイト「こども環境アセス」の開設

### ■ モデル事業（他団体との協働）

- ①北アルプス国際芸術祭の社会環境配慮住民アセス
- ②円融寺プロジェクトマッピング奉納の住民アセス
- ③大阪万博アセスに対する配慮書・方法書の提案活動
- ④公害患者による「水鳥再生プラン」の再評価アセスなど



日本最初の住民アセス資料を掘り起こして再録



子ども向けのツールを公開しているサイトの開発も手がけて作成しました。

## 全助成期間の活動を振り返って

3年間という時間をいかして、ツール開発とモデル事業を両輪に、様々な分野や地域の団体と連携して活動できた。環境省においても環境アセスメント分野での市民活動分野での担い手づくりの必要性を認識し、試行的な事業に着手することとなった。これらの成果は、山間地の辺鄙などところを拠点としながらも、環境アセスメントや3D-VRシミュレーションといった特技をいかして、活動を広げられることを確信させるものとなった。

〒398-0002  
長野県大町市大町3302  
電話：0261-22-7601  
E-mail：npo@omachi.org  
HP：http://npo.omachi.org/



## 今後の展望

- ①大阪万博アセスのフォローアップ（私たちの提案がいかされているかの追跡。夢洲の自然環境の変化の追跡）
- ②持続可能性評価の支援ツール開発（日本では未確立の持続可能性評価の手法を市民から提案）
- ③住民アセスの手引書の出版（住民アセスの再定義と事例、今日的な意義を発信したい）
- ④途上国への情報提供（住民アセスという「日本の経験」を発信し、交流したい）